

平成 29 年度 文化財防災訓練等実施状況報告

都道府県名

埼玉県

行 事 名 称	第 64 回文化財防火デー 旧新井家住宅消防訓練
実施期間・日時	平成 30 年 1 月 21 日（日）9：30～10：30
実 施 場 所	国指定重要文化財『旧新井家住宅』（埼玉県秩父郡長瀬町大字長瀬 1164 番地）
主 催 者	秩父消防署、長瀬町教育委員会

■実施内容

訓練の想定

旧新井家住宅南側の竹林付近から出火した火災は延焼拡大し、施設関係者の初期消火活動にもかかわらず、火勢は衰えず旧新井家住宅及び長瀬町郷土資料館への延焼危険が生じたと想定。

訓練の内容

長瀬町郷土資料館職員が火災を発見、通報（119 番通報）、初期消火（放水銃）、展示品（模擬）の搬出、入館者避難誘導訓練の実施。消防署、消防団による放水訓練を実施。

参加者及び役割分担

- ・長瀬町郷土資料館職員（4 名）：通報（119 番通報）、初期消火（放水銃）入館者の避難誘導
- ・施設周辺地域住民（8 名）：初期消火（放水銃）、展示品（模擬）の搬出、入館者役
- ・文化財関係者（2 名）：初期消火（水消火器）、展示品（模擬）の搬出
- ・秩父消防署員（10 名）：全体統括、放水訓練、講評
- ・長瀬町消防団員（20 名）：放水訓練、講評
- ・長瀬町教育委員会職員（2 名）：現場立会い、報道対応

特に工夫した点

通常はシフト制で交代勤務している職員が全員（4 名）参加し、施設周辺地域住民や文化財関係者とともに放水銃を使用した初期消火訓練等を実施。（居合わせた入館者にも参加を依頼した。）

消防署と消防団による放水訓練においては、水利の不足を想定し、水槽車による中継放水や隣接する施設への延焼を防止するため、水幕ホースを使用した放水訓練を実施。

問題点・課題

屋外消火栓設備（放水銃）を使用するには、非常用ポンプを手動で起動し、約 50m 離れた貯水槽から地中に埋設された管を通して水を送ることになるが、平常時は凍結防止のため管の水抜きがしてあるため、ポンプ起動から放水開始までにタイムラグ（3 分程度）が生じてしまう状況をいかにして改善できるかが課題。

その他

毎年、『文化財防火デー』にあわせて「消防訓練」や「防火査察」を行うことで、行政機関、文化財周辺地域住民、文化財関係者及び各消防隊相互における連携を確立し、警防技術の向上と合わせて、文化財愛護思想の普及と防火・防災意識の高揚を図ることができるよい機会となっており、今後も継続して実施することが重要。

訓練風景

別紙

物品搬出（近隣住民等）



放水（奥から 放水銃、消防団、北分署）

